

ありとあらゆる経営手法を駆使し、万策尽きた後に打つ手は何でしょうか。本書に登場する六人の経営者は、窮地に陥った原因を不況や他社の過失に求める転嫁は一切せず、責任の全てを自ら引き受ける「倫理経営」の一手に定め、現状突破を果たします。

無論その扉は、魔法の杖を振るようには開いたものではありません。残酷なほどに繰り返す苦難、顔色を失う失策、踏み間違いなどを経て「難局打開の扉」を開く過程は、それぞれに息を呑むドラマに満ちています。

業種、規模の大小にかかわらず、経営の最前線は日々戦場と言って過言ではありません。修羅場を生き抜き、大きな代償を払って初めて「過去の言動が正確に自らに返ってくる」哲理を知らされるのです。しかし、だからこそ

人は痛恨の思いを希望へと変容させて、力強い一歩を踏み出すことができるのではないでしょうか。

生き残りを賭けた厳しい現場に立ち、彼らは毅然として経営理念を「倫理」の一矢に定めます。その真摯な実践によって窮境を脱する過程を追体験していただきたいのです。

本書は、機関誌『倫理ネットワーク』の経営体験記を精選し、改めて取材にあたり、再構成したものです。これはまさしく、壮絶な第一線からの最新報告です。

平成二十四年十二月十五日

社団法人 倫理研究所

毅然と立つ

体験で綴る経営者の決断

目次

6 大窮地こそ度胸の見せどころ 緒方一義（おがたフードサービス有限会社）

頭の中は金ばかり／会社は社長の器以上は大きくならない／
おせち料理食中毒事件／約束を守る／家族の遺志を継いで／後継者は娘夫婦

36 食品づくりの鍵は現場にあり 山崎貞雄（株式会社ニッコー）

夜の学習会／中華まんが大ヒット／妻に「ありがとう」／
自分との戦い／両親を想う／チャレンジしてこそ

58 許し合う心が和を築く 大村秀明（株式会社綜和）

瞬間湯沸かし器／父の介護で見えてきたもの／社長みずからが挨拶／
経営の危機を救った絆／夫婦愛和の極意／地盤築きが功を奏す／果たすべき役割

82 感謝の心が生むアイデア商品 池 龍昇（株式会社 土佐龍）

四国一の土産物を目指して／信用の失墜／始発列車の旅立ち／
商品に命を吹き込むネーミング／一人ひとりの個性で勝負／苦しい時こそ明るく

104 見る観光から体験する観光へ 中野吉貫（株式会社 中野屋）

足跡を残すセールス／「うどん学校」の設立／モーニングセミナーこそ基本／
基礎となるもの／給料袋に「倫理」を

128 創業精神に根ざした経営を貫く 照屋義実（株式会社 照正組）

脱・公共事業依存宣言／バブル時代の赤信号／創業者の魂に触れる／
信用第一でつくる客との関係／大事件を経て／決意が呼び込んだ大型受注／地域と共に歩む